

やまと 民俗への招待

17年前の10月3日、大和高田市で「近畿東海北陸ブロック民俗芸能祭99」があった。近畿・東海・北陸の12府県の民俗芸能を、各府県教育委員会が会場を持ち回りしながら、開催市とともに公開事業を行うもので、私が奈良県の担当者だった。

三重県の石取祭の祭車が舞台に持ち込まれ、にぎやかな太鼓と鉦の祭り囃子で会場は一気に祭りの雰囲気となつた。中ほどでは静岡県から招請した「藤守の田遊び」が軽快な歌を歌いながら象徴的な農作業の様子を演じる。奈良県からは「国栖奏」が珍しく公開され、最後に演じられたのが、地元高田の「ダンジリ囃子」だった。大和高田市では当時、市内中心部の本町と市町の他、奥田と根成柿の4地区にダンジリが曳行されていた。



1999年に大和高田市文化会館さざかホールで開かれた芸能祭で、ダンジリ囃子を披露する高田の(左から)本町、奥田、市町、根成柿の人々=記録誌より

終わらなかつた。ダンジリ囃子の出演者には、ダンジリが解体されたままで休止している地区の人々も参加していたが、その人々の

反応はこれだけでは終わらなかつた。ダンジリ囃子の出演者には、ダンジリが解体されたままで休止している地区の人々も参加していたが、その人々の

熱い思いも呼び覚ました。さっそく資金を集め、大阪府岸和田市内からダンジリを購入することになったのだ。翌年の5月5日にこのダンジリは入魂式曳行が行われ、以来高田で動いて今年で17年になる。

復活した市民の誇り

(奈良民俗文化研究所
代表・鹿谷勲)